

【書き下し文】

孟孫陽楊子に問ひて曰はく、「人此に有り、生を貴び身を愛し、以て死せざらんことを求む。可ならんか」と。曰はく、「理として死せざるは無し」と。「以て久しく生きんことを求むるは、可ならんか」と。曰はく、「理として久しく生くるもの無し。生は之れを貴び能く存する所に非ず。身は之れを愛して能く厚くする所に非ず。且つ久しく生くること奚ぞ為さん。百年すら猶ほ其の多きを厭ふ、況んや久しく生くることの苦しきをや」と。

孟孫陽曰はく、「若し然らば、速やかに亡ぶるは久しく生くるに愈る。則ち鋒刃を踐み、湯火に入れば、志す所を得ん」と。楊子曰はく、「然らず。既に生まれては、則ち廢して之れに任せ、其の欲する所を究めて、以て死を俟たん。將に死せんとすれば、則ち廢して之れに任せ、其の之く所を究めて、以て尽くるに放らん。廢せざる無く、任せざる無し。何遽其の間に遅速あらんや」と。

【現代語訳】

孟孫陽が、楊子に次のように質問した。「ある人がここにおいて、生きることを大切にし、自分自身を愛し、死なないことを望んでいるとします。それは可能でしょうか」と。楊子は答えた。「死なないということは、道理としてありえません」と。次に孟孫陽は、「では、ずっと生き続けることは可能でしょうか」と聞いた。答えた。ずっと生き続けることは道理としてできません。命と言うものは、これを大切にしたらからと言って、長く続くものではありません。自分の体というものは、これを愛したからと言って、厚くする（頑丈にする）ことができるものではありません。またさらに、長く生きることが何になるのでしょうか。百年という寿命ですら、長すぎて嫌気がさすというのに、ずっと生き続けることの苦しさはなおさら言うまでもありません」と。

孟孫陽は言いました。「もしそうであるならば、すぐに死ぬということは、ずっと生きることには勝るといふことですね。それでは、鋭い刃を踏みつけ、熱湯に飛び込めば、その思い（＝早く死ぬこと）はすぐに結果が得られるでしょう」と。楊子は答えました。「そうではない。この世に生を受けたら、作為を加えずそのままにして成り行きに任せ、やりたいことをやり遂げて、死ぬことを待つのがよい。死ぬ間際になったとき、作為を加えず成り行きに任せ、最後まで行き、命が尽きるのがよいのです。すべて作為を加えずあるがままに任せる。どうして死ぬことの遅い速いに問題があるだろうか、いやない。